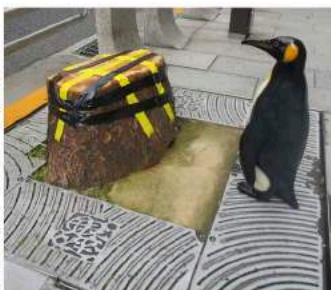


銀の輔、銀座千枚



の枯れ葉が舞い落ちて、四丁目交差点も毎日の掃除が大変な季節になってくるんだよ。

晴海通り沿い、和光近くの歩道が妙にさっぱりしてるなと思ったら、街路樹が一本伐採された。一瞬おひとり様ベンチかと思っただけ。寿命が危険だったか邪魔だったか知らないけど、切り株だけになると、もう元の姿が思い出せない。彼は一体何歳だったのかな。きつと前のオリンピックは知ってるよね。銀座の移り変わりを、じつと静かに見つめてきたんだ。ちよっと話を聞きたかったな。

もたもたしてたら、銀座も秋になっちゃった。銀座通りのシヨウウィンドウなんか、もう冬支度って感じだもの。恒例の神社巡りが終わって、歌舞伎座の顔見世興行があって、もうちよいするとクリスマスだ、早いね。行き交う人もすっかりオシャレモード。そのうち街路樹



けでビックリするって。工事が始まれば、あつという間に更地はビルになるけど、木が見上げるようなサイズに育つのは大変。ここに何が植えられるかわからないけど、今度が僕らが見守る番だね。

高野金次郎商店

親切第一 平成29年中秋号

版元:東京ペンギン堂本舗・高野ひろし 豊島区北大家2-26-2
fax:03-3917-1949 RXM04421@nifty.com

協力:高島平電腦研究所、築地河岸工房
関連ウェブ:各種検索エンジンで「東京ペンギン堂本舗」検索すると
ポータルサイトに辿り着けます。http://shiosenbe.booc.jp/

勝手にお気に入り5

銀座で銀の輔写真を撮る時に使うハーフサイズカメラバラスト5

- ・オリンパスペン
- ・リコーオートハーフ
- ・フジカミニ
- ・京セラサムライ
- ・キャンノンデミ

あとはキャンノンのダイヤル35が手に入れば完璧なんだけど。。。

東京右側一万歩

ここにも時々登場する、高田先生と松村邦洋さん&素人三人衆の月例散歩会・いちのさんぽ会。大病から奇跡の大復活を遂げた先生と、心肺停止にかけちゃあ先輩の松村さんと共に、リハビリを兼ねての江戸東京珍道中が、なんと本にまとめられたのだ。

毎回二人の生放送が終わるニッポン放送ロビーに集合して、北は北千住から南は南千住まで、いやいや、東京の右半分を数時間経巡るって寸法。ある時は有楽町から歩きっぱなしでゴールまで、またある時は

電車に乗って、けもの道みたいな路地もあれば坂道だらけの高差溝ももあり、時には地下道を延々彷徨ったりもする。なにせコース作りは全て一任されてるので、そりゃへそ曲がりだわ。全員落語好きだから、名作の舞台も通れば、買い食いスポットも通り、ゴール近くには良き飲み屋があって、気がつけば毎回ほぼ一万歩。



- 1 有楽町↓日本橋↓神田
- 2 有楽町↓新橋↓浜松町
- 3 森下↓清澄白河↓門前仲町
- 4 入谷↓竜泉↓三ノ輪
- 5 蔵前↓浅草橋↓若本町
- 6 春日↓稲城↓東大
- 7 本所吾妻橋↓山手橋↓吉原
- 8 南千住↓千住大橋↓北千住
- 9 日比谷↓大手町↓東京駅
- 10 銀座↓兜町↓水天宮

高田文夫と松村邦洋の東京右側「笑芸」さんぽ

「有楽町線」に降りて

東京プチアーカイブ

例によって旧実家から救い出した中途半端に古い写真から手繰る東京物語。

前に上野駅赤帽室のことを話したけど、写真箱をかき回したら、東京駅の赤帽

さんの写真が出てきた。考えてみりゃ東京駅だって長距離列車が沢山あるから、いな訳がない。でも、どこに赤帽室があったのかは全く思い出せない。でも確かなのは、この時代の駅舎の方が面白かったという点だ。

そもそも地下に銭湯、というか入浴施設があったことが画期的だった。東京温泉とかいう名前で、その横の多分大丸があったビルの地下には映画館があった。観光映画とか国際何とかとか、妙に堅苦しい名前がついてた記憶があるけど、ピンク映画をやってたはず。ビルの上には日本中の県の東京事務所が集まって、旅行に行く時はパンフレットを貰いに

行った。今で言うアンテナショップの、物販無いバージョンだ。話は脱線するけど、外堀通りを渡ったちょっと先、八重洲通り沿いにも映画館があった。ここでは洋画を見たはずで、建物は今も残ってる。今なきがあるんだろっ？

丸ノ内側、はとバス乗り場寄りの駅舎には、飲食店が集まっていた。レストランというよりは食堂って風情の店ばかりで、僕はこの中の精養軒でハヤシライスばかり食べていた。寿司屋も入って、ちょっと懐に余裕があると、並のちよい上の握り一人前を食べたりもした。

でも庄巻はステーキジョギョラリーの出現。現在の駅舎になる前に完成したギョラリーは、来場者も少なく、もっと異空間振りを発揮してた。特に併設のカフェがお気に入り、小窓のある煉瓦剥き出しの壁寄りの席で、ぼんやりオフィス街

を眺めていた。磯崎新の展覧会で、即席サイン会が開かれたのもここだった。

佐竹商店街を知ったのは、大人になってからだ。近所の末広商店街にも、春日通りを挟んだ先にある稲荷町にも親友の友達がいて、時々お供で出掛けたりしてたけど、こっちまで出張っては来なかった。御徒町で降りたら、ほほアメ横に行ってしまう訳で、多慶屋を知ったのもずっと後だから、更に既橋方向にある佐竹までは、なかなか辿り着けなかった。

ここは東京……初めて佐竹を歩いた時、申し訳ないけど僕は思ってしまった。アメ横ばかり、せいぜい十条あたりを歩いてた之余計だ。アーケードはあるけど薄暗く、目線の店舗は普通でも、天井近くにはいつからあるか分からない看板が付いた店が沢山あった。商店街の中ほどには、十円で子供が乗る乗り物があって、思い切り国鉄車

両で、しかも時折塗り替えられていた。これは随分後まで健在だったような気がする。大阪歩きをするようになって、環状線から少し離れた駅前の商店街に、似たような雰囲気を感じた。郷愁と置いてけぼりの下町。

竹町公園の方に入ると、緑青が美しい看板建築や羽目板の木造建築があちこちに残り、狭い路地が横溢していた。その路地裏に物干しがあり、耳を澄ますと何かの機械音が聞こえる小さな工房があり、この辺はね、職人の家が多いのよって、蕎麦屋だか食堂のおばちゃんに言われた。

ここから稲荷町に行くか、三味線堀経田でおかず横丁に行くか、そんな二十世紀の佐竹商店街。そういや稲荷町には、くろんぼって洋食屋があったっけな…。



高級句誌
俳人同様
Haijin Doyo
三朝庵梅里・筆
SAN CHO AN BAI RI



梅里 見送り姿を後ろ雨長き

秋の長雨寒い雨、上野山下早
咲きの、桜の葉っぱも濡鼠、世
界中からやって来る、観光客で
沸き返る、流石の上野公園も、
意気消沈の静けさは、勿怪の幸
い傘差して、上野の山をうろう
ろと、いつも人気の西郷どん、
着たきり雀は辛そうで、すつく
と立った瘦せ我慢、背な付む
彰義隊、慰霊碑無言で涙雨、夏

の盛りは過ぎたけど、くすみ加
減の木々の葉が、濡れて輝き取
り戻し、早めに散った枯葉の分
も、頑張り枝にしがみつくと、そ
の静かなる公園に、急な行列美
術館、連慶降臨トーハクに、パ
ンタペビの動物園、やとと賑
わい取り戻し、だからといって
止まぬ雨、動物園のすぐ脇の、
鄙びた風情の遊園地、今や更地

の立入禁止、清水堂の舞台から、月
輪松の和の中に、けむる不忍弁天堂、
いつもひっそり摺鉢山は、巨木に囲
まれしつとりと、森閑とした佇まい、
足を伸ばして寛永寺、更に人気はな
けれども、大層根本中堂の、雨種伝
う雨水榭、大小波紋は尽きぬほど、芸
大煉瓦も京成の、旧駅も皆濡れそぼ
つ、秋が深まる気配と共に、冬の用意
も万端と、上野の山の雨よろし。



中オーダーホカと筆とそりこ



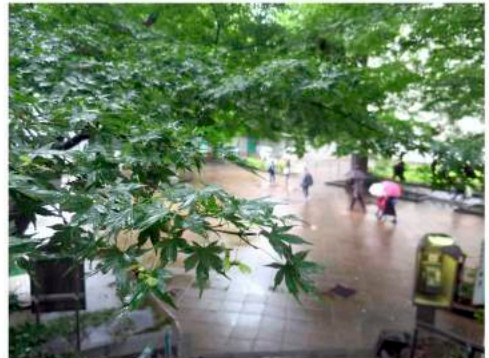
うというのが悪天候の利益



身を寄せて雨やり過ごす昼下がり

秋雨上野の山の旅

紅葉に備え全身シャワーして



北口番外編

東京大塚カウンター異聞 K'sバーの人々

北大塚の折戸通りからちよいと脇道に逸れた小道にある早朝バー・K。女子高生とお年寄りという謎めいた客層は、季節が秋になっても変わらないう。それどころか、旅行者らしき外国人も増えてきた。

「この店……うちの店の扉を叩く音、ガラス越しに鐘ヶ淵さんの姿が見える。「こんにちは、ペンギンさん。今暇ですね。」お時間ありますか？とか、ギリでお暇ですか？だろ。僕が暇だって決めたわけないで欲しいけどね。「ああとこそ、暇ですかから」「じゃあお邪魔しますよ。そつそつ、あなたの新しいお店

の上、星野リゾートだそうですな。」都電の線路を挟んだ向かい側にある工事中のビルを見ながら、鐘ヶ淵さんは言った。「そうなんですよ、ちよっとビックリしちゃって……」と僕は答えた。

街の噂では随分前から流れていたけど、僕が正式に知ったのは、十月に入ってからネットニュースだった。「なんでも、OMOっていう新業態のホテルですって」。リゾートホテルって印象があるブランドが手掛ける、新しいシティホテルらしい。旭川と大阪にもオープンするという。「色々考えますな、あちらさんも」「ですね」「その一階に硝子屋さんが店開きする訳だ、フッフ」「ペンギングッズを売る硝子屋です、へへへ」「何だかちよっと愉快ですね」と、本当に嬉しそうに笑うけど、僕にしてみたら笑ってばかりもいられないけど。

「でも言うておきますが、どんなホテルが来ようと、お店を変えちゃダメですよ。まだまだ大塚は変わりますよ。きつとドンドン小奇麗になっ

ていくでしょうな。飲食店は更に増えるでしょう。だからこそ物売る商売を続けて欲しいんですと、妙に真面目くさい眼差しを向ける。「そして怪しい変な店、でしょ？」「そうそつ、変な店。こんなもん誰が買うんだらうってなね」。そりゃ言い過ぎだろ！

「それを言うなら鐘ヶ淵のお店ですよ」と僕も応戦する。「フッフ、アタシの店、そんなに変ですかね」「だいたい、いつからやってるんです？」「かれこれ二十年くらいになりますか。マジか？知らないぞ、あんなとこにバーがあったなんて……「まあ、折戸通りの裏に移ってきたのは五年くらい前で、それまでは大塚駅周辺を転々としてましたからね。それにしても聞いたことがないよ、早朝から開いてる酒を出さないバー。」昔からお酒を出さないんですか？」「ほら、アタシ飲めないですよ？」「だったら喫茶店にすればいいのに」「喫茶店はやるとこじゃなくて、行くところですよ。といつてもアタシんこは殆

ど喫茶店の・ようなものですけど。」

「こんにちは」店を開けたばかりだというのに、お客さんだ。午前中に来るのは、ガラス修理の依頼が多い。「あの、ペンギンさんですか？」と声を掛け

ペンギンクラブ ゾロゾロぞろ目ライブ

2017年 11月 11日 (土)



Open 17:30 Start 18:00
会場: Welcome back
J.R.ビル5階 大塚駅前 徒歩2分
http://www.welcomeback.jp
入場料 2,000円 (ドリンク代 500円)

たのは女の子。すると「あつ、オジサン！」「どちらさんでしたっけ？」と失礼な返事。「ないだお店で、上京する友達と上野で会うと言ったら、教えてくれたでしょ、ペンギンさんが詳しいって」「ああ、先週の土曜日に来た人。」

「ちよっと待って下さい。こういう人が、この頃やたら多いんです。前にも言いましたよね、勝手に観光案内所にするなって」と僕は鐘ヶ淵さんを見て……。

結局僕は、その子に落語協会二階の黒門亭と『うさぎやカフェ』、上野の山のアート展に行くなら、金券ショップで安いチケットを探さよう教えた。鐘ヶ淵さんはずっとニヤニヤしてたけど……。

編集後記のようなもの

南大塚萬重宝に割り込んできた画像は、僕が参加する精成三十数年というロックバンド、ペンギンクラブのライブ告知です。十一月十一日、大塚駅南口のウェルカムバックというライブハウスで、

久々のライブをします。喧しくて下らない曲ばかりですが、よろしかつたら遊びに来て下さいまし！★配布協力感謝・千駄木・古書ほろろ、吉祥寺・ブックスルーエ、雑司ヶ谷・旅猫雑貨店、法善寺横丁・洋酒の店路、築地・ふげん社。浅草・珈琲アロマ。